

第4回茅野市総合計画審議会会議結果報告書

会議の名称	第4回茅野市総合計画審議会		
開催日時	平成29年7月25日(火) 18時30分～21時00分		
開催場所	市役所8階大ホール		
公開・非公開の別	公開	・非公開	傍聴者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 委嘱書交付</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p> <p>(2) 目指すべき将来像について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p>		
事務局	1 開会		
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>昨日の日経新聞に掲載されたが、移住についての相談件数が2年連続で長野県が全国1位だった。長野県が1位の理由として首都圏からの距離が近く、ポテンシャルが高い。人口減少が進む中、長野県は可能性を秘めていることがうかがえる。</p> <p>一方、長野県の生産年齢人口の中で、茅野市においては女性の割合が平均よりも低いことが分かった。茅野市は女性にとって魅力的な職場が少ないのではないかと感じている。一度茅野を離れた若い女性に帰ってきてもらえるような施策が必要ではないかと感じている。</p> <p>茅野市に限らず、現在製造業等では人手不足と聞く。理由の一つとして、団塊世代の完全リタイアにより就労人口に変化が表れたのではないかと考えられる。</p> <p>若い労働力は都会に集中する傾向がある。女性と若者に対しての施策が急務ではないかと感じている。</p>		
事務局	<p>3 委嘱書交付</p> <p>八十二銀行の人事異動により、茅野支店長が代わった。それに伴い総合計画審議会委員も交代となったため、副市長から委嘱書の交付を行う。</p>		
委員	<p>着任して1カ月。皆様のお役に立てるよう一生懸命対応していきたい。</p>		
事務局	<p>4 協議事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p> <p>・・・資料1に基づき説明・・・</p>		

会長	意見として承るといふことでよいか。
委員一同	異議なし。
会長	内容については計画策定にあたって、配慮していただきたい。
事務局	(2) 目指すべき将来像について ・・・資料2、資料3、参考資料に基づき説明・・・
委員	新聞記事に『第5次茅野市総合計画の延期を示唆』とあり心配している。経過や今後の進め方等の考え方はどうなるのか。
事務局	5次総はこの基本構想を含め、分野の計画も来年の3月を目標に策定作業を進めている。それと合わせ、パートナーシップのまちづくりの今後のあり方についても、パートナーシップのまちづくり推進会議の中で同時並行で検討している。 この経緯は、茅野市がパートナーシップのまちづくりを進めてから20年、分野別(福祉・環境・教育)の活動が20年、また第二ステージとして地域コミュニティの取組が10年経過という節目もふまえ、今後のパートナーシップのまちづくりのあり方を5次総に合わせて検討している。 パートナーシップのまちづくりと、第5次総合計画の基本構想についての関係は、基本構想を、パートナーシップのまちづくりの手法を用いて実現していくため、パートナーシップのまちづくりのあり方について、この基本構想の中に盛り込む方向である。 そうした中で、会議の状況によっては若干遅れる可能性もあるが、8月にパートナーシップのまちづくり推進会議が開催予定となっており、その状況を踏まえて、次回の審議会では大まかなスケジュールを示したい。
会長	どこかの時点でパートナーシップのまちづくり推進会議の意見をすり合わせる作業が必要と思う。現在、進行状況がズレており、せっかく自分たちのまちづくりについて意見を出したいのに5次総に盛り込まれないとなると非常に残念。事務局でうまくすり合わせていただきたい。
委員	5次総の審議会を進めてきた中で、事務局で作っている現状・課題については、パートナーシップのまちづくりのふりかえりでも出された課題が盛り込まれていない様を感じる。となると、4次総を進行してきた中で何が課題なのか、それをふまえて今後どうしていきたいかという市民の生の声を我々が聞かないと、5次総のイメージが出てこないのではないかと。 9月頃にパートナーシップのふりかえり等の資料を提示予定という事だったので、今日5次総の基本構想の話を進めると、後から出てきた資料の内容が、将来像にうまく反映されないのではないかと。 市民の皆さんの期待に沿った5次総にするためには、やはり必要な時間はかけるべきなので、スケジュールの延長も視野に入れ、あまり拙速に結論を出すべきではない。
事務局	市民の意見を計画に反映することと、これからのまちづくりの課題を共有することが今回の計画策定の大きなポイントである。

事務局	<p>まず課題をこの審議会の中で共有し、それを5月に行われた全体ミーティングで分野別策定の委員さんにも茅野市の現状と課題、今後の方向性について共有し、分野別の計画にも反映していきたいという主旨で進めてきた。</p> <p>今後、分野別の計画やパートナーシップのまちづくりのふりかえりの中で上がってくる課題もあり、それも共有し、修正すべきものは修正する。</p> <p>将来像の資料を本日提示しており、将来像の“案”を作っていくが、こちらについても必要に応じて修正していく事をご理解いただきたい。</p> <p>各分野の個別計画を策定する中で洗い出される課題と、審議会の中からの課題を共有して意見交換がされていかないと、うまくいかないのではないかというご心配かと思う。やはりある程度たたきとしての将来像を決めて、課題を出していき、それをそれぞれの事務局が個別計画を策定する際、市民の皆さんと協議しながら基本構想を練っていく事になる。</p> <p>パートナーシップのまちづくり推進会議でもあったが、総合計画と重複している訳ではない。市と市民、地区の皆さんがどのように一緒になってまちづくりをしていくかという事。</p> <p>この20年、お互いに合意形成をしてまちづくりをしてきた。今後どのような合意形成の仕方とするかを主に話し合い、その考え方を基本構想に入れていく。また推進会議で出てきたものを審議会でも共有しながら、今度はどういったまちづくりを、どんなやり方で進めるかを議論してつくっていく事になる。</p>
会長	<p>目指すべき将来像を考えていくには、茅野市が10年後どんな山に登ればいいのかという事ある時点ではっきりしなくてはいけない。今回の5次総は今までのシチュエーションとはかなり違い、人口減少は危機的である。</p> <p>将来像の策定にあたっては、いつの時点を見据えてのものかが重要である。この5次総は10年後の茅野市の将来像を策定するが、まちというのは生き物でずっと続いていくものであるため、10年後ではなく、もっと先を見据えるべきという考えもある。それぞれ一市民として、どの時点イメージして、どんなまちだったら住んでみたいかご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>親世代、自分、子ども世代といった、20～30年の区切りだと文化・経済のサイクルが変わってくるかと思う。そのくらいのスパンを見越すのがよいかと思う。</p>
委員	<p>文面やコンセプトとしては、総合戦略の基本コンセプトは特徴がよく出ていいと思う。また、遠くから来る人にPRする文面でありたいし、市民にもPRできるものが良い。</p>
委員	<p>人口減少により、コミュニティが寂しくなり、空き家が増え、遊休農地が増える、そうしたネガティブな部分を防ぐような魅力ある茅野市、自然環境や生活環境が荒廃しない、維持できるということが伝わる将来像が良い。</p>

委員	<p>また、リサイクルについて、暮らしていく中で必要な事として、ゴミを減らすなどの取組により生活環境の向上を図ることが必要だと思う。</p> <p>先日の会議でも、人口減少にばかり目を向けるのではなく、少ないからこそ何かが出来るという意見があった。減ってしまうのは仕方がないので、今ある資源をきちんと活かして、大きくする事よりも「資源をどう活かすか」「自然をどう活かすか」と考えていく方が将来像としては良いと思う。</p> <p>“変わらないまち”というのも一つの魅力であり、田舎に帰ってきた時に「このまちは変わらなくてホッとする」ということもあると思う。開発して新しくするばかりが良いことではないと感じている。</p>
委員	<p>基本的には税収があって行政ができるというのが根底にある。</p> <p>一市民として思うのは、茅野市の人は茅野弁を堂々と活用し、近所の子どもは人の家の水道を勝手に飲み、観光道路では軽トラックとトラクターの間を、フェラーリやハーレーが駆け抜けてゆく。いいまちだったなあと、幼少期を思い出す。地域コミュニティもあり、変に都会化しない長野県の一地方都市・観光都市の良い所だと思う。そういったものが残っていれば、「あそこに行ってみたいよね」という人も増えると思う。</p>
委員	<p>40年前に茅野市に来て、生活に不便さがあるものの、それ以上の魅力があったと思う。市民活動に関わっていると、非常に暮らしやすいし、安心できる部分も多い。</p> <p>将来像については、2次総の『緑に囲まれた安全・快適なまち-茅野市』が自分のイメージと合っている。個人的には快適さがベースにあり、空気感、穏やかさというのが茅野市に合っていると思う。あまり『輝く』など積極的な表現より、ゆったりした表現を基準に考えてもいいと思った。</p>
委員	<p>私が考えるなら『それぞれの安心都市』。安心とは心で感じるもので、それぞれ違うので色々な意味の安心がある。理科大生の意見の中に茅野市の魅力として諏訪中央病院とあった。医療の充実もまた安心のひとつ。</p> <p>茅野市は子育て支援に力をいれており、とても充実している。その子どもたちが大きくなって進学等で茅野市を離れても、また帰ってきたくするような、施策の組み立てが必要である。</p> <p>生産年齢人口の女性割合の減少については以前から感じていた。理由は、進学や就労で外に出た女性にとって、プライドやスキルを活かせる職場が茅野市に非常に少ないということ。これからは技術革新の力などを活用し、女性が好む仕事環境や生活環境を整えることもできるはず。</p> <p>コミュニティの充実や公民館活動も含めた学習意欲の高さなど、茅野市にしかない、茅野市の良いところを掘り起こして見直し、一つひとつ施策を当てはめていくというやり方をしてほしい。</p>
委員	<p>基本指針はいくつかあるが、人が生きる原点で考えると「仕事」「生活」「環境」の3つに集約される。そして、その3つについて、それぞれの年代によって、キーワードがでてくる。仕事といっても年代によって活躍の場は変わる。生活にしても環境にしても年代が違えば求めるものも変わってくる。当面10年先の時代の潮流を見据え、世代別の意識や価値観、</p>

	<p>その時々状況を鑑みながら、全ての世代が活かされる施策を、茅野市の魅力創造と合わせて考えていく、と考えると広がりが出て夢も出てくるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市の自然の表現として、差別化を図る為にも具体的に“八ヶ岳”という言葉を入れていただきたい。将来像をイメージする時点については、目先になってしまうが時代の流れは早いので10年で考えていくべき。</p> <p>自分が暮らすとしたら、「きれいで居心地が良いまち」に住みたい。</p> <p>女性の社会進出はめざましいものがあり、将来的には意識していく必要がある。また、理科大生は、茅野市にいる間に色々なところを見て回って、地元の人との触れ合いを大切にしたい。</p> <p>市民と行政が近いことは茅野市のいいところ。課を超えて、そこに行けば誰でも何でも相談できる総合窓口のような場所があると良い。</p>
<p>委員</p>	<p>長寿の長野県という事で高齢者が元気なのは良いことだが、5～10年後、茅野市の人口は35～40%が高齢者となる。それをふまえ、10年のスパンで考えた方が良く思う。高齢者の社会的活躍に力を入れるのも具体的なまちづくりのひとつとなる。</p> <p>自分が20年後に住みたいまちは、その頃25～30歳になる自分の子供が戻って来なくなるまちである。地域のコミュニティをこれからも大切にして、世代を越えた交流や助け合いにより、住みやすいまちにしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>作物を作るためには水、空気、肥沃な土地が基本であり、茅野市のそうした恵まれた自然は、農業にとって一番重要不可欠な要素である。大自然というキーワードを茅野市としての考え方に入れていただきたい。山との共生や、縄文遺産も加えながら10年後20年後を考えたい。</p>
<p>委員</p>	<p>自分の孫ができる頃が自分にとっての将来像のイメージ。子どもには、茅野市にこだわらずに自分の夢に向かって頑張ってもらい、帰ってきたときに「やっぱり茅野はいいな」と感じられたり、自分が生まれた茅野を自慢できるようなまちでありたい。</p> <p>また、まちや地域で支え合う仕組みがあって、都合で親を1人茅野市に残してしまっても、“安心して出ていけるまち”といった視点もあるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>一市民として、周りに田んぼや畑があるのは嬉しい。例えば農業が元気だったら人付き合いが元気で環境が守られていく。農村が活発だったらコミュニティも活発となる。寂しいのは土地が荒れて雑草だらけの土地が増えてしまうことである。</p> <p>農業と観光がうまくコラボレーション出来れば、雇用も生まれ、観光客も来てくれる。そうやってうまく循環出来るためにも、農業がひとつの柱になったらいいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>活性化の定義を考えたとき、関わる人が計画を持ってそれを実行に移している人が多い事が活性化の高い状態であり、行政・組織はアイデアを実現するために後押しをするプラットフォームになっていくべき。茅野市ではパートナーシップのまちづくりが基本コンセプトに入っているの</p>

で、それをもっと支える事が必要である。

そして、今後のまちづくりポイントは教育である。生涯教育においても、行政がやるべき環境整備は、個人では解決できない、教育とアイデア実現のプラットフォームをつくる事である。

また、ここ数年、学校教育が大変になってきており、先生が仕事をしやすい環境を先進的に茅野市がつけることがあらゆる循環に繋がっていく。教育力が優れた都市であれば、親はここで教育を受けさせたいという事になり、人口が増え、産業やグローバル化に対する信頼が向上する。

大学のあり方についても、茅野市が、様々な年齢の人に入ってもらえる大学をつくると、学びの環境に刺激が生まれ、生涯学習という考え方に繋がっていく。仕事をしながら大学で学んだり、仕事を辞めて大学で学んだあと仕事に戻れたりといった“学び直し”という事を、社会が後押しできれば、学びたい人が集まり、教える側にも張り合いがあり、学ぶための良い環境となる。

行政内部の課題として、生涯学習分野をみても色々な部署で似たような施策をしている事がある。統合するのは困難でも、連携することで施策の能率を上げることができるので、連携を促進するプロフェッショナルがいても良いのではないか。

委員

理科大生のヒアリングのように、各年代の茅野市民のヒアリングもあればよかったのではないか。

個人的な将来像は、地域において助け合い・支えあいがあり、安心して暮らせる茅野市であってほしい。

茅野市の花火大会は帰省のきっかけにもなっていた。寂しい思いをしているという市民の声もあるので、ぜひ復活してほしい。

委員

将来像を見据える期間については、民間企業は技術革新等を踏まえ長期計画であっても3年程度とするところが一般的であるが、民間と行政との違いを勘案すれば10年間は妥当でないか。

AI等の技術は飛躍的に進んでおり、山間部の交通弱者や物流業のドライバー不足問題は10～20年後には解決している可能性が高い。情報化の進化速度も早く、地方でも都市部と同等の医療サービスを受けられるようになるだろう。

若者が首都圏に行く理由として、夢を実現できる職場があることが大きい。茅野市にも若者が夢を実現できる魅力的な雇用の場があれば、自然環境もよく、文化歴史もある地域なのだから、人口流出も防げるのではないか。

委員

将来の理想といえば、誰もが健康でいたいということ。スポーツによってみんなが健康になり、健康な人が仕事をすれば経済も健康、健やかな子供達によって教育現場が健康となって、茅野市そのものが健康になる。

また、茅野市が好きで、誇りを持っているという姿勢を、次の世代へつなげていく事が大切である。

委員

将来計画は、次の世代にどういった状態のまちを引き継いでいくのかを議論すべきであり、人口減少や高齢化などの制約はあるが、豊かな自然、安心・安全を支える地域コミュニティ、働く場所などを良い状態で残

委員	<p>せるようにしたい。</p> <p>「産業間連携による産業振興」「グローバル化に対応する産業育成」等は早急な対応が必要な内容であり、次期計画としては、地域で新しいビジネスをつくり出していくための支援が重要となる。若い人たちが新しいビジネスにチャレンジできるような仕組みやサポートがあると良い。</p> <p>人口減少に伴い税収にも制約ができ行政が出来ることも限られてくる。それも見据えて広域で取り組むことと、茅野市独自で取り組むことの整理や準備が大事である。</p> <p>将来像の期間としては、10年後が良いのではないか。それ以降については、10年後の6次総を策定する際にまた見直せばよい。</p> <p>前回の将来像策定時には積極的で前向き、攻めの意見が多く、『人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市』と決まった。ここまでの意見を聞くと、守りと攻めの間地点より若干攻めよりの意見が多かったように感じる。こういった時代だからこそ、より豊かなものを求めていくという事も大切になる。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月31日（木）18：30～ 市役所8階大ホール <p>総合計画策定全体ミーティングの開催案内</p>
会長	<p>6 閉会</p> <p>本日は、長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。これにて閉会とします。</p>

以上